

船井情報科学振興財団

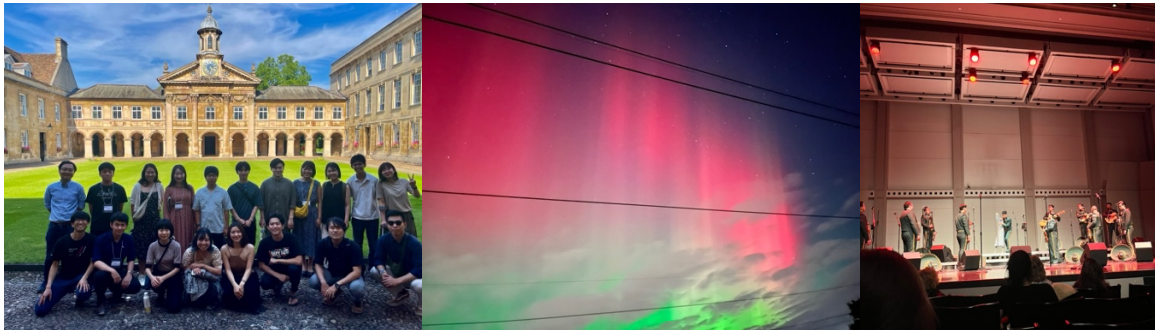
第3回報告書

久壽米木啓悟*

Cornell University, Department of Information Science

2024年12月

時の流れは早いもので、夏・秋はあっという間に過ぎ去り、気づけば雪景色の季節となりました。



左から、夏の交流会@Oxford; イサカから見た10月のオーロラ; マリアーチ（メキシコの音楽）のコンサート

授業

2024年の秋セメスターでは、Qian先生の「Human-AI Interaction Design Research」というHuman-Computer Interaction (HCI)の授業を履修しました。私にとってHCIの授業は初めてで、HCIを専門とする友人によれば、Qian先生はこの分野で非常にユニークな考えを持っているとのこと。正直なところ、授業内容のいくつかは概要を理解するのが難しく、特に「Designとは何か」というテーマについては、授業を終えた今なお完全に理解できていません。ただ、HCIの人たちがどのようなアプローチで研究を行っているのかを広く浅く知ることができた点は、自分にとって大きな収穫でした。

もう一つポジティブな点として、この授業を履修することで、私の卒業要件における授業単位はすべて満たされました。（私の所属するデパートメントでは、たった4科目の履修でOKです！）そのため、来学期からはより研究に集中することができそうです。

ただ最近、エンジニアリングやものづくりに興味が湧いてきています。私の研究分野

（Computational Social Science）は大量のデータとパソコンさえあればできてしまい、物理的なものを作るという作業がありません。この数年、実際に「ものを作る」という体験をしてみたいという欲求が生まれる一方で、それをやったことがない自分へのコンプレックスを抱いていました。このモヤモヤを解消すべく、来学期は3Dプリンターを使った物作りや回路設計を学ぶ授業を履修するかもしれません。新しい挑戦を通じて、視野を広げたいと思っています。

研究

研究においても、充実した半年間でした。一つは、私のメインの研究テーマである「いかに **Interdisciplinary Collaboration** がうまく行われているのか」に関するものです。この研究は現在、論文の仕上げ段階にあり、ラストスパートをかけています。また、もう一つのテーマとして「**AI Impact on Science**」に取り組んでおり、最近の大規模言語モデル (LLM) が科学に与える影響を定量的に測る研究を進めています。こちらも執筆の仕上げ段階にあり、グループの仲間たちと共に執筆を頑張っています。

生活

夏には船井の交流会に参加しました。場所はイギリスのオックスフォードで、私にとって初めての交流会でした。久しぶりに会う同期や、初めて出会う先輩・後輩たちとともに、非常に楽しく刺激的な日々を過ごしました。さまざまな研究分野の最先端の話を数日間で吸収できる機会はなかなかありません。朝から晩まで研究や PhD 生活に関する議論を通じて、貴重なネットワーキングができたのは本当に有意義でした。来年の交流会も今から楽しみにしています。

11月の **ThanksGiving** 休暇には、友人たちとコスタリカへ旅行に行きました。11月下旬ともなるとイサカは雪が降り、ビタミン D を求めて太陽が恋しくなります。私はサーフィンが好きですが、イサカは内陸に位置しており（最寄りの海岸までは車で4時間以上）、冬は雪も降るため、サーフィン好きには適していない土地です。そんな中、サーフィン好きの友人たちと意気投合し、一週間のサーフトリップを計画しました。

コスタリカでは、太陽が当たり前のように海を照らし、広大で良質な波を堪能しました。まさに至高の一週間で、なぜ私はあの極寒の地で毎日パソコンとにらめっこしているのだろうと自問自答しました（もちろん、イサカにはイサカの良さがあります！）。少なくとも、この旅行で気分をリフレッシュできたことは間違いなく、将来はサンディエゴやオーストラリアといった場所で波のある環境で研究を続けたいという思いを新たにしました。この目標を実現するために、**PhD** を全力で頑張りたいと思います。



左から、すっかり雪景色なイサカ; コスタリカの国立公園にいたイグアナ; サーフィンしてる我々